

新年に 年頭の



東通村議会議長 小笠原 清 春

新年明けましておめでとうござい
います。

希望に満ちた新春を迎え、皆様
のご健勝とご繁栄を心から寿ぎ、
東通村議会を代表いたしまして、
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

村民の皆様には、平素より議会
に対する格別のご理解と絶大な
ご支援を賜り、厚くお礼申し上げ
ます。

議長就任以来、議員各位のご協
力を頂きながら、複雑多様化する
行政需要に的確に対応するため、
開かれた議会と村政の伸展を一義
として、誠心誠意努力して参りま
した。

本村の礎を築かれた先人の方々
に深く感謝申し上げ、愛する郷土

東通村を未来の村民に誇りをもつ
て引き継ぐことのできるよう、一
層の努力をお誓いし、新年を迎え、
決意を新たにしているところであ
ります。

さて、多大な被害と多数の犠牲
者を出した、東日本大震災から早
二年九ヶ月が経過いたしました。

関係町村はもとより国や県等の懸
命な努力により、地震や津波によ
り破壊されたインフラは概ね復旧
したものの、原子力発電所事故の
影響で故郷を追われ避難されてい
る方、家屋・財産を失い生活設計
の目的がたない方が、今なお多
数存在し、残念ながら地域の再生
に至ってはおりません。村議会と
いたしましても、原発立地村とし
て、被災された方々が元の暮らし
を一日も早く取り戻せるよう、国
及び関係機関に対し、これまで以
上に強く要請して参る所存であり
ます。

ときに、我が国の経済は、平成
二十年後半にリーマンショック及
びその後の欧州政府債務危機によ
り生じた世界経済の信用収縮と鈍
化により、日本経済に大きな影響
を及ぼし、円高とデフレの悪循環
もあって、いわゆる産業空洞化も
進んだところであります。このよ
うな中、国は長引くデフレからの
早期脱却と経済再生を最優先課題
として「大胆な金融政策」、「機動
的な財政政策」、「民間投資を喚起
する成長戦略」から成る「三本の
矢」いわゆるアベノミクスを一体

として強力に推進してきたことに
より、景気が穏やかに回復しつつ
あると受け止めているところであ
ります。いずれにいたしましても、
国民が将来への明るい展望を描け
るよう、経済の活力強化に軸足を
置いた国の政策を今後も注視して
いく必要があるものと認識してお
ります。

本村の基幹産業である一次産業
において、農業の稲作は豊作とな
り、漁業においては、サケ漁の水
揚げは昨年の不漁から平年並みへ
回復傾向にあるものの、イカ漁は
平年並みの水揚げを下回り、漁家
にとつては大変厳しい年の瀬であ
ったかと思ひます。

東通原子力発電所においては、
東北電力一号機は、電気料金の値
上げの前提として稼働の時期を来
年七月としているものの、原子力
規制委員会による敷地内破砕帯調
査が進められ、又、今後、再稼働
の前提となる新規制基準に基づく
申請・審査が必要な状況にありま
す。一方、東京電力一号機は、福
島第一原子力発電所の事故により、
本格工事の開始を見合わせており、
現場の維持と安全品質対策のため
の一部の工事のみが進められてい
る状況にあります。現時点におい
て、事業者からは具体的な見直し
は示されていないところであり、
未だ不透明な状況が継続しており
ます。このような状況は、村の産
業や経済等に大きな影響を及ぼす
ことから、議会としても、村と同

一步調の元、新規制基準に適合す
ることはもちろん、福島第一原子
力発電所の事故の教訓と地震・津
波等に係る最新の知見を反映する
ことなどにより、安全性の確保に
万全を期し、又、村民への丁寧な
説明と適切な情報開示による事業
者との信頼関係を再構築し、早期
の再稼働、本格工事の再開を求め
る要望書を東北・東京電力両事業
者に対して提出し、強く要請した
ところであります。

東通原子力発電所は、本村議会
において昭和四十年誘致決議以来、
一貫として原子力の共生により村
民の福祉向上を目指して、着実に
歩み続けて参りました。東通原子
力発電所の建設計画は、村の振興
計画の実現に大きな影響を及ぼす
ものと認識しており、東通村議会
といたしましては、今後とも原子
力発電所の推進に協力して参りた
いと考えております。

本年も、内外の経済、社会情勢
の厳しい中ではありますが、村議
会に与えられました村民の皆様か
らの信託とご期待に添うべく、懸
命な努力を傾注する所存でありま
すので、何とぞご指導とご鞭撻を
お願い申し上げます。

ここに、村民の皆様のご多幸と
ご繁栄をお祈りするとともに、平
成二十六年が我が村にとって希望
に満ちた年となりますよう念願し、
新年のご挨拶といたします。